

平成 25 年度 卵用讃岐コーチンの性能調査

萱原由美・渡邊朋子

The performance survey of Sanuki Cochín. (2013. 9–2015. 1)

Yumi KAYAHARA, Tomoko WATANABE

要 約

平成 25 年 9 月 25 日え付けの純系「讃岐コーチン」の性能調査を実施した。体重は 20 週齢時に♂で 2,555.3g、♀で 1,960.9g、43 週齢時にはそれぞれ 3,280.8g と 2,189.4g であった。♀の産卵成績は、産卵開始が 124 日齢、50%産卵到達が 144 日齢、64 週齢までの平均産卵率(以下 H・D という。)が 84.7%、ピーク産卵率が 95.7%、卵重は 36 週齢 52.5g、64 週齢 52.6 であった。

緒 言

当场では、昭和 59 年に鶏愛好家から譲り受けた鶏をもとに香川県の特産鶏を作出し、平成元年に「讃岐コーチン」と命名発表した。この鶏の生産性は高くなかったため、これをもとに平成 5 年に「肉用讃岐コーチン」、平成 7 年に「卵用讃岐コーチン」をそれぞれ実用鶏として作出し、以降、主に県内孵化場および農場へと種卵やひなを供給している。

今回は平成 25 年度に餌付けした「卵用讃岐コーチン」の性能調査が終了したので、その成績を報告する。

材料及び方法

1. 供試鶏

調査に供した鶏群は、平成 24 年 11 月 7 日え付けの鶏群より作出した。

ひなの採取は、人工授精で種卵を採取してふ化させ、表 1 の羽数のひなをえ付けした。

表 1 供試鶏

鶏種 (系統名)	系統由来	羽 数
卵用讃岐コーチン(1/8D)	香川県畜産試験場	♂200羽、♀550羽

2. 調査期間及び飼養形態

検定期間および飼養形態は、表 2、3 のとおりである。鶏舎は 36 日齢以降は開放鶏舎で飼養し、産卵期間(21~70 週齢)の光線管理は、15 時間の明るい時間を確保するよう点灯時間を調整した。

表 2 調査期間

区 分	期 間
え付け	平成 25 年 9 月 25 日
育成期間	平成 25 年 9 月 25 日~平成 26 年 1 月 21 日
産卵調査期間	平成 25 年 1 月 22 日~平成 27 年 1 月 27 日

平成 25 年度讃岐コーチンの性能調査

表 3 飼養形態

日 齢	施 設	
1～ 35 日齢	バタリー育雛機	850mm×2650mm／100 羽
36～120 日齢	群飼ケージ	間口 875mm×奥行き 555mm／6 羽
121～490 日齢	♀単飼ケージ	間口 230mm×奥行き 400mm／羽
	♂群飼ケージ	間口 870mm×奥行き 750mm／5 羽

3. 給与飼料

飼料は市販の配合飼料を給与したが、これを表 4 に示す。

表 4 給与飼料

区 分	粗蛋白質 (%)	代謝エネルギー (kcal)	形 状	給与日齢
幼雛育成用	21 以上	2,950 以上	クランプル	1～ 35 日齢
中雛育成用	17 以上	2,850 以上	マッシュ	36～ 70 日齢
大雛育成用	15 以上	2,800 以上	マッシュ	71～120 日齢
種鶏用	16 以上	2,800 以上	マッシュ	121～448 日齢

4. ワクチンプログラム

ワクチンプログラムについては、表 5 に示した。また、他の飼養管理については、当場の慣行法により実施した。

表 5 ワクチンプログラム

日 齢	ワクチン
0	MD(L)、NB(L)、FP(L)
7	IB(L)
14	IBD(L)
21	MG(L)、MS(L)、ND(L)、IB(L)
28	IBD(L)
35	NB(L)、AP(L)
56	CAV(L)、FP(L)
63	AE(L)、NB(L)
70	IB(L)
91	NB2GR(OE)、EDS(OE)

5. 調査項目

調査項目は表 6 に示す項目とした。

表 6 調査項目

区分	項目
孵化	受精率、中止率、死籠率、孵化率
育成率	140 日齢時羽数／え付け時羽数
生存率	490 日齢時羽数／141 日齢時羽数
体重	0、3、20、43、64 週齢
産卵	産卵開始日齢、50%産卵到達日齢、産卵個数、産卵重量、産卵率、平均卵重
卵質検査	卵重、卵形係数、卵殻強度、卵殻厚、ハウユニット

成績および考察

1. ふ化

ふ化成績は表 7 のとおりであった。参考値として、平成 25 年の鶏群の成績 (H25) に加えて、平成 22 年 8 月 (H22) え付け鶏群の成績を表 7 に示した。

H25 の成績は、H22 の成績と比較すると、受精率は劣っていたが、死ごもり率は低く、孵化率も改善していた。受精率の低かった理由は明らかではないが、暑熱のためと考えられる。

表 7 ふ化成績

鶏種 (系統名)	受精率 (%)	中止率 (%)	死ごもり率 (%)	ふ化率 (%)	
				対入卵	対受精卵
卵用讃岐コーチン(H25)	89.4	7.0	10.4	74.6	89.6
卵用讃岐コーチン(H22)	93.8	6.6	19.7	70.3	80.3

2. 育成率、体重及び生存率

1 週から 20 週齢までの育成率と 21 週から 64 週齢までの生存率、および 0、3、20、43、64 週齢時の体重を表 8 に示す。

♂♀ともに育成率が低いが、これは、当初からの予定どおりに体重測定時に低体重鶏を淘汰したためである。また、♀の生存率が 88.9%と低いが、これは初夏期から秋期にかけてのワクモ発生の影響のための死亡と推察される。

表 8 育成率、生存率および体重

項目	週齢	♂	♀
育成率 (%)	0-20	28.2	52.9
生存率 (%)	21-70	100.0	88.9
体重 (g)	0	34.3±2.9	34.3±2.7
	3	238.2±17.4	216.4±13.9
	20	2555.3±120.7	1960.9±107.5
	43	3280.8±210.5	2189.4±185.9
	64	3121.5±249.7	2451.8±217.5

平均±標準偏差

3. 産卵

H 22 年鶏群の成績とともに H25 年鶏群の産卵成績を表 9 に示す。また、H・D の推移を図 1、卵重の推移を図 2 のグラフに示した。

これまで卵用讃岐コーチンの系統維持については、開放鶏舎で実施してきた。産卵期の光線管理は他の鶏種と同様に行っているが、その産卵成績は、季節(温度、日長)の影響を受ける傾向があり、44 週齢から 46 週 (H25. 7. 23~8. 12) にかけて暑熱のため産卵率が低くなり、卵重も軽くなったが、その後は徐々に回復し、一定レベルを保ちつつ、試験を終了した。

平成 25 年度讃岐コーチンの性能調査

表 9 産卵成績

	産卵 開始 日齢	50% 産卵 日齢	21～64 週齢の成績					
			産卵率		ピーク	平均	飼料摂	
			(HD)	(HH)	産卵率	卵重	取量	飼料要求率
			(%)	(g)	(g/羽・ 日)			
卵用讃岐コーチン (H25)	120	133	84.7	100.6	95.7	56.5	107.4	2.27
卵用讃岐コーチン (H22)	139	148	80.6	78.0	92.4	58.2	111.7	2.37

図 1 産卵率 (H・D) の推移

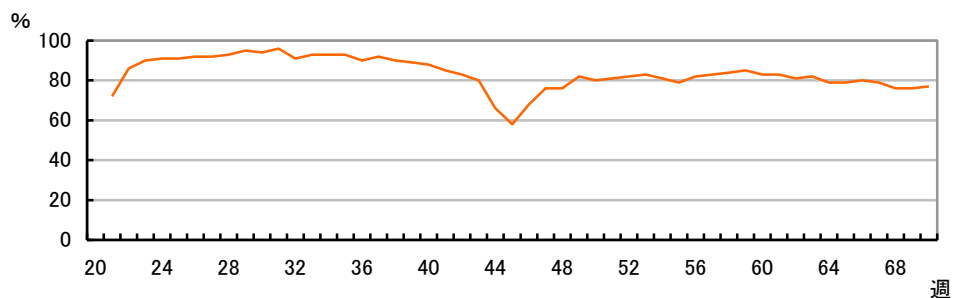
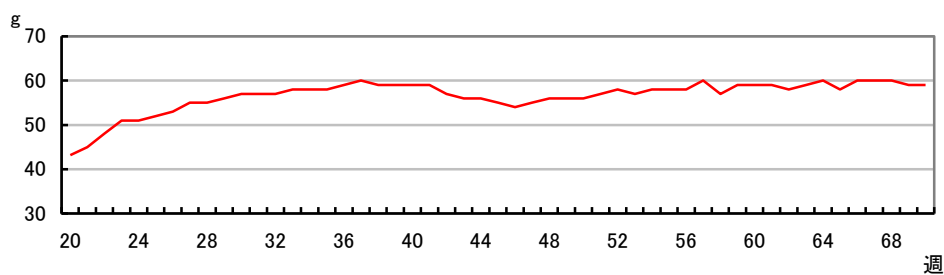


図 2 卵重の推移



平成 25 年度讃岐コーチンの性能調査

4. 卵質検査

36 週及び 64 週齢時に実施した卵質検査の成績を表 10 に示す。使用機器は、卵殻強度計(富士平工業)、卵殻厚計(富士平工業)、エッグマルチテスター EMT-5000(全農)である。

H22 年と比較し、卵殻強度、卵殻厚およびハウユニットの成績では 36 週齢時の数値が低い、これは猛暑の影響により卵質が悪化したためと推察される。

表 10 卵質検査成績

週齢	測定個数	卵殻質								卵内容	
		卵重(g)		卵形係数	卵殻強度(kg/cm ²)			卵殻厚(10 μ)		ハウユニット	
H25											
36	60	52.5	± 3.2	76.0	3.6	± 0.7	41.1	± 3.7	89.8	± 5.2	
64	60	52.6	± 4.1	75.4	3.3	± 0.7	34.4	± 2.7	87.3	± 8.8	
H22											
36	30	60.1	± 3.4	77.3	3.1	± 0.6	33.3	± 2.5	94.1	± 5.8	
64	30	60.0	± 5.4	74.9	3.0	± 0.6	37.5	± 2.4	82.4	± 8.7	

平均±標準偏差